

島根の 前期古墳

島根県古代文化センターでは、島根県域における前期古墳・古墳時代前期社会の特質を明らかにすることを目的に令和4年度から研究事業を進めています。島根県内には「景初三年」銘三角縁神獸鏡が出土した神原神社古墳が所在するなど、前期古墳を研究するうえで重要な地域です。

また、令和元年度から継続している松江市鹿島町をフィールドにした前期古墳の発掘・測量調査の成果も生かしながら調査研究を進めています。

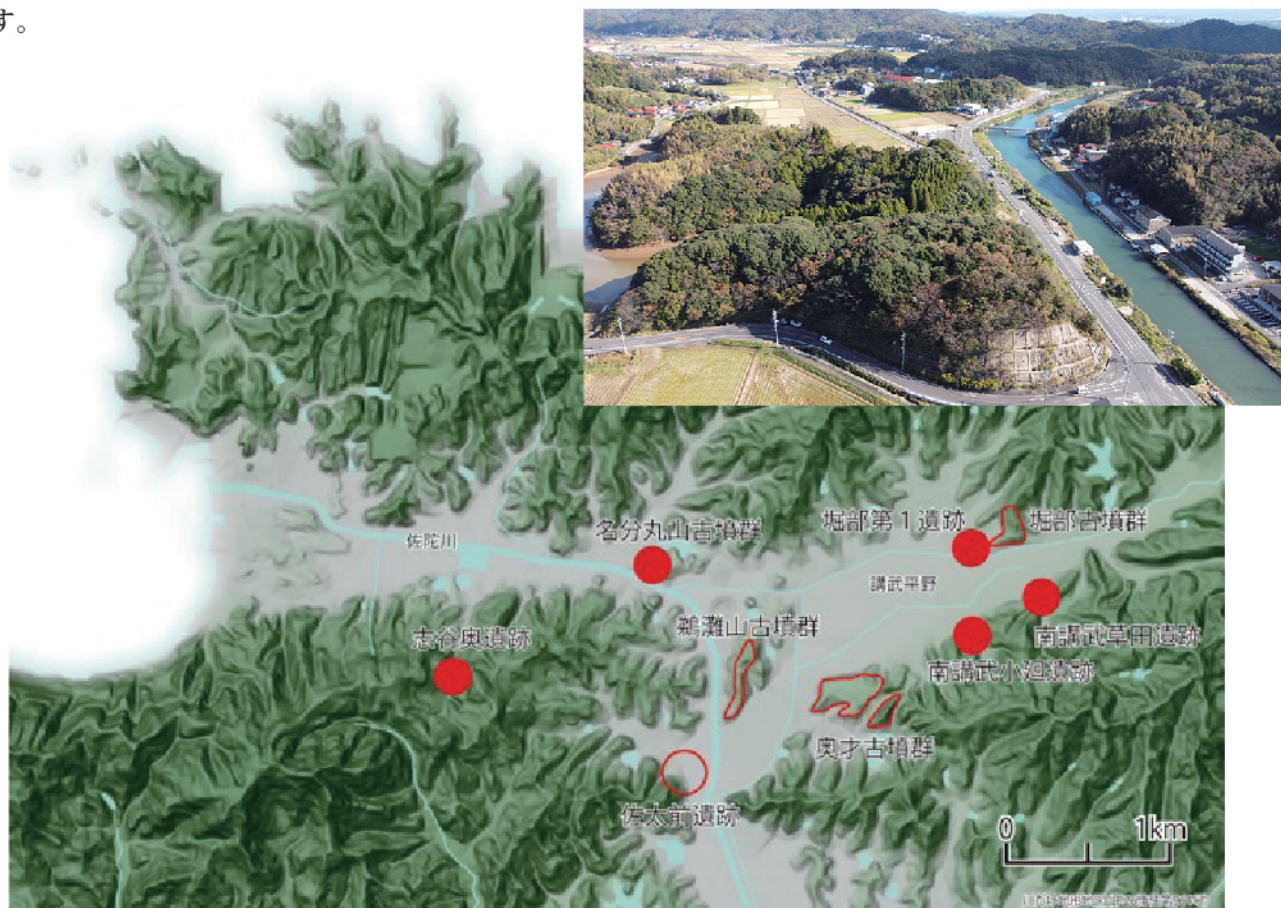


神原神社古墳出土「景初三年」銘三角縁神獸鏡（文化庁蔵）

なぜ鹿島地域がフィールドなのか！？

松江市鹿島町は日本海にひらけた立地で弥生時代から朝鮮半島系の土器が出土した遺跡が所在し、出雲における交易の拠点の1つといえる地域です。県内でも前期古墳が多数築かれる地域で、講武平野を取り囲むように前期古墳が築造されます。そのような環境から鹿島地域をフィールドにして、調査研究を進めています。

これまで鶴灘山古墳群の測量調査と分布調査、名分丸山1号墳の測量調査と発掘調査、堀部1号墳の測量調査などを実施しました。今回は令和4年度に行った名分丸山1号墳と令和5年度に行った堀部1号墳の調査成果を紹介します。



鹿島地域の主要遺跡分布図

名分丸山1号墳の発掘調査

名分丸山1号墳は全長40mの前方後方墳で日本海に注ぐ佐太川沿いの丘陵上に位置します。出雲地域における前方後方墳の出現を考える上で大変重要なことから、令和4年度に発掘調査を実施しました。

発掘調査によって

- 1 埋葬施設の痕跡の確認
- 2 墳丘築造方法の確認
- 3 バチ形に開く前方部の確認
- 4 古墳時代前期中頃に築造されたことを確認

以上のことから県内で出現期の前方後方墳であることが明らかになりました。

名分丸山1号墳の発掘調査の様子はしまこだチャンネル (Youtube) でご覧いただけます！

動画視聴はこちらから▶



名分丸山1号墳墳丘測量図

堀部1号墳の測量調査

堀部1号墳はこれまで全長45.5mの造り出し付円墳として、知られていました。近年、地形の観察等から古墳時代前期にさかのぼる前方後円墳の可能性が指摘され、令和5年度に測量調査を実施しました。

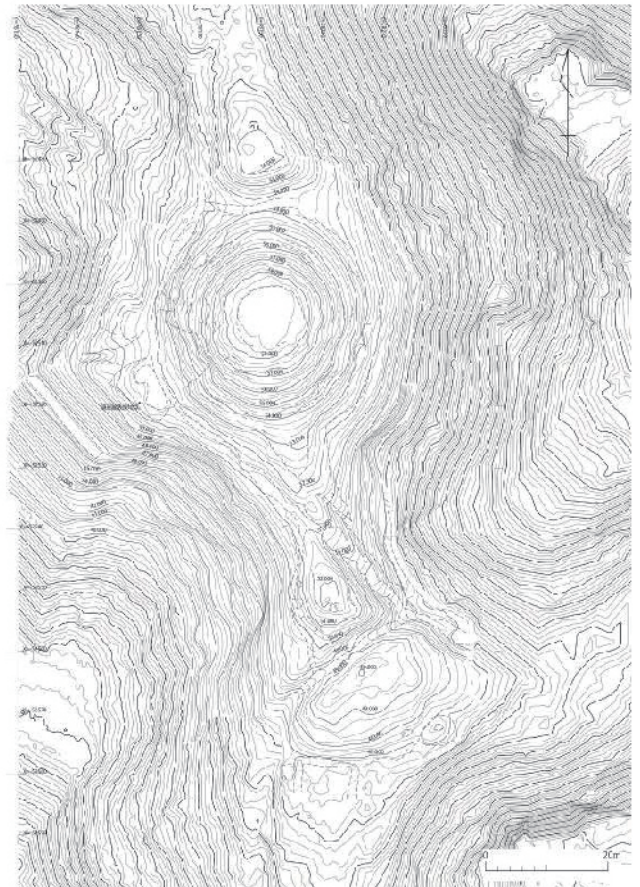
調査で得られた成果は、

- 1 全長70mの前方後円墳の可能性
- 2 後円部2段、前方部1段
- 3 細長い前方部を有する
- 4 墳丘上に葺石、埴輪なし

遺物がなく詳細は不明ですが、墳丘の形などから古墳時代前期にさかのぼる前方後円墳となる可能性が高まりました。前方後円墳とした場合は島根半島最大です。詳細は今後発掘調査などで明らかにしていく予定です。

前期古墳調査のゆくえ

鹿島地域の前期古墳の調査を進める中で多くのことがわかってきました。今後は継続して古墳の調査を行うほか、これらの成果をもとにしてなぜ鹿島地域に前期古墳が集中して築造されるのかなど、島根地域の古墳時代前期社会の様相をテーマ研究の中で深めていきます！



堀部1号墳墳丘測量図